

国際化学肥料ニュース (2018年4月)

肥料業界の2018年4月動態

- * 4月3日、インド IPL 社が尿素入札を公表した。応札締め切りは4月10日、入札結果発表は4月17日、予定購入数量が未定であるが、5月28日まで船積み出港という条件である。今年インド側の尿素入札はこれで2回目である。

- * 4月10日、インド IPL 社の尿素入札には応札件数20件、応札量180万トン。最低応札価格は CFR 西海岸 259.97 ドル/トン、CFR 東海岸 264.9 ドル/トン。最低応札の尿素はイラン産である。IPL 社は応札者との交渉を経て、4月17日に落札者を公表する。
インド今回の尿素入札は国際市場の尿素市況への影響が弱い。特にバルト海から輸出されるロシア産尿素は小幅の値下げが続いていて、4月中旬の FOB 価格が 220 ドル/トンまで低下した。また、中東や北アフリカ産尿素も4~5月の FOB 価格が 235~250 ドル/トンの価格帯に推移しているだろう。

- * 4月17日、インド IPL 社は尿素の落札数量と落札価格を公表した。決定された購買数量120万トン、そのうち60万トンはイランと中東湾岸品、残りは北アフリカとヨーロッパ品である。

- * 先月インドは2018~2019年度の肥料補助金が確定されてから、DAPの輸入商談が再開された。すでに自由契約の形で CFR421~425 ドル/トンの価格で中国、ロシアとサウジアラビアから11.5万トン DAPの輸入が決定した。また、GSFC社が6万トン DAPの入札を行っている。
一方、モロッコ OCP 社との間に第2四半期の粗りん酸輸入に関する商談が進行中で、今月末までの契約を目指している。インド側は第一四半期より40ドル高い CFR720 ドル/トンを提示している。但し、OCP 社はさらに50ドル/トン以上の積上げを強く要求し、契約の締結が難航している。
4月18日の最新情報によれば、モロッコ産粗りん酸について、インド側が CFR720 ドル/トンを提示し、モロッコ側が760ドル/トンを堅持した。双方の隔たりが大きく、合意まで時間がかかりそうである。

- * モロッコ OCP 社はアフリカスーダン政府の7.5万トン DAP入札に落札したと発表した。落札価格は FOB400 ドル/トンである。

* 中国りん酸肥料と化成肥料工業協会の発表によれば、2017年中国りん酸肥料生産量が1.3%減の1640.7万トン（P₂O₅換算、以下同）、そのうち高濃度りん酸肥料（DAP、MAP、重過リン酸石灰など）が0.6%減の1535.4万トン、低濃度りん酸肥料（過リン酸石灰、熔りんなど）が10.7%減の105.3万トン。輸出量が4.6%増の491.5万トン。りん酸肥料業界全体の売上が5.7%増の4792.7億人民元（約760.7億ドル）、利益が33.3%増の180.4億人民元（約28.6億ドル）、利益率が2.1%である。

また、2017年に30万トン（P₂O₅換算、以下同）のりん酸肥料生産設備が完全に廃棄されたほか、12社計100万トン生産設備がこの1年間に全く稼働されなかった。

* りん安の国際取引が活発になった。4月9～15日の1週間にインドがサウジアラビア、ロシアとヨルダンから計22万トンDAPの輸入契約を締結した。価格がすべてCFR420ドル/トンである。また、インドネシアKujang社は4月13日に1.8万トンDAPの入札を行った。南米ではアルゼンチンがモロッコOCP社から4万トンMAPを購入し、さらに3.3万トMAPの入札も行っている。一方、ブラジルでは通貨安と農産物価格不振の原因で、今年1～3月の肥料輸入量が急減した。特にMAPとDAPの輸入量が55%減少し、化成肥料輸入量も67%減少した。従って、MAPのCFRブラジル価格が418～423ドル/トンまで下がった。

* パキスタン政府は2018～2019年度（2018年7月～2018年6月）の肥料補助金制度を発表した。補助金が今年度と同じで、変動がない。

一方、パキスタン政府は予算赤字と外貨不足の原因で、再来年度から化学肥料補助金制度を撤廃することを考えている。その代わりに農家の負担増を減らすために化学肥料にかかっている消費税を引き下げることがセットで行う。但し、結論が出ていない。

* 4月中旬から中国側と国際加里メジャーとの2018年塩化加里輸入基本契約に関する交渉が始まった。加里メジャー側は50ドル/トン以上の値上げを要求し、中国側は値上げ幅を20～30ドル/トンに抑えるよう抵抗している。

* 中国窒素肥料工業協会の最新資料によれば、2017年窒素肥料生産量（N換算）が8.6%減の3820.5万トン、尿素プラントの年間平均稼働率58%、尿素実生産量が13.8%減の5337.1万トン。窒素肥料消費量が4.4%減の3276万トン、そのうち尿素の実消費量が8%減の4886万トン。化学肥料プラントの廃棄によりアンモニア生産能力が約400万トン、尿素生産能力が約380万トン削減された。一方、窒素肥料の輸出量が24.2%減の554.6万トン（N換算）、輸入量が10.6%増の24.1万トンである。

但し、窒素肥料の価格上昇で、尿素の工場平均出荷価格が 24.6% 高く、企業が大幅増収した。業界全体の売上総額が 15.4% 増、純利益が 38 億人民元の黒字で、2016 年の 98 億人民元赤字から回復した。

- * 中国税関の速報によれば、3 月の化学肥料輸出量が 23.4% 減の 169 万トン、そのうち尿素 10 万トン、DAP25 万トン、化成肥料 2 万トン。化学肥料輸入量が 2.7% 増の 100 万トン、そのうち塩化加里 82 万トン、化成肥料 15 万トン、硫酸加里 1 万トン。
- * インドからの最新情報によれば、インド側とモロッコ OCP 社との間に第 2 四半期の粗りん酸輸入に関する商談がまとまった模様。粗りん酸の CFR 価格が第 1 四半期の 678 ドル/トンから 72 ドル値上げ、750 ドル/トンである。
- * インドの化学肥料補助金が確定されてから、インドの DAP 輸入が活発している。4 月中旬以降 2 週間だけで、CFR425~430 ドル/トンの価格で中国、サウジアラビアとモロッコから 45 万トン以上の DAP 輸入契約をした。
- * 中国税関の統計データによれば、第 1 四半期 (1~3 月) の中国化学肥料輸出量が 22.3% 減の 383 万トン、そのうち尿素 76.3% 減の 29.5 万トン、DAP15.7% 減の 64.9 万トン、MAP29.6% 減の 33.8 万トン、化成肥料 33.2% 増の 30.5 万トン。
1~3 月の化学肥料輸入量が 2.7% 増の 333 万トン、そのうち塩化加里 4.4% 減の 274.2 万トン、化成肥料 47.5% 増の 37.2 万トン、尿素 8.6% 減の 4.7 万トン、硫酸加里 103.3% 増の 1.8 万トン。

大手各社の営業業績

- * ロシアの Eurochem 社は 2017 年の業績を公表した。化学肥料販売量が 0.4% 増の 1347 万トン、その内訳は尿素 263 万トン、硝安 157 万トン、MAP129 万トン、DAP90.7 万トン、化成肥料 267 万トン、ほかに UAN、塩化加里など。化学肥料の市況が好転したため、粗利が 11% 増の 17.9 億ドル。
- * アメリカの Mosaic 社は 2017 年の業績を公表した。売上高が 3.5% 増の 74.1 億ドル、為替の変動、フロリダ州 Plant City りん酸肥料工場の閉鎖など、純利益が 1 億 720 万ドルの赤字である。
また、Mosaic 社は 2018 年世界のりん酸肥料 (MAP、DAP、重過リン酸石灰、化成肥料) の需要量が 6890~7090 万トン、加里肥料 (塩化加里、硫酸加里) の需要量が 6550~6750 万トンと予測し、いずれも 2017 年より微増である。

- * イスラエル ICI 社は 2017 年第 4 四半期及び 2017 年全体の業績を公表した。10～12 月の加里肥料生産量 130 万トン、販売量 150 万トン。また、りん鉱石採掘量 110 万トン。加里肥料の価格上昇で、10～12 月の純利益が 484%増の 1.55 億ドルに達した。

2017 年の業績について、加里肥料生産量 477 万トン、販売量 504 万トン、りん酸肥料生産量 209 万トン、販売量 229 万トン、年間純利益 3.64 億ドル、2016 年の 1.22 億ドル赤字から回復した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 昨年末に完成したロシア Eurochem 社の Usolskiv 加里鉱山は稼働率が順調に上がっている。今年の塩化加里生産量が 45 万トンと計画する。一方、建設中の Eurochem 社の Volgakaliv 加里鉱山は今年夏季に完成する予定で、秋から生産開始し、年内の塩化加里生産量が 13～14 万トンと予測している。

- * 4 月 11 日、ルウェー Yara 社とドイツ BASF 社が共同でアメリカテキサス州 Freeport 市に建設しているアンモニア工場が完成した。当該工場が年間アンモニア生産能力 75 万トン、投資額 6 億ドル、Yara 社と BASF 社はそれぞれ 68%と 32%の株式を持ち、生産されるアンモニアもその比率で分け合う。Yara 社はアンモニアを北米の工業と農業関係者に販売し、BASF 社は自社のポリカプロラクタム合成に使用する。

その他

- * 4 月 18 日、オーストラリア Salt Lake Potash 社は開発中の Goldfields Salt Lakes SOP プロジェクトについて、三菱商事のオーストラリア子会社との間に販売依頼契約を締結したと発表した。契約によれば、三菱商事オーストラリアは Goldfields Salt Lakes から産出された硫酸加里の 50%以上を輸出販売する権利がある。Salt Lake Potash 社は Goldfields Salt Lakes の鹹水を原料に生産能力 5 万トン／年の硫酸加里を建設する計画である。